中国の対アフリカ援助と直面する新たな課題

徐偉忠*

中国は最大の発展途上国として、アフリカ諸国を含む発展途上国との友好協力を強化することを一貫して外交政策の礎としてきた。アフリカへの援助は中国の対外関係の一つの重要な側面であり、中華人民共和国成立以来、中国は国際主義の義務を真摯に履行し、アフリカ諸国に可能な限りの援助を提供することに努め、大きな成果をあげてきた。

第1節 対アフリカ援助の二つの段階と関連政策

中国のアフリカへの援助はおおむね二つの段階に分けられる。第一段階は中華人民共和国成立から1978年の改革開放までである。1955年に開かれたバンドン会議と1963年末から1964年初めにかけての周恩来総理によるアジア・アフリカ十数カ国訪問が中国・アフリカ関係（以下、中ア関係と略す）の急速な発展を促した。この時期、中国は対外経済技術援助についての八つの原則を打ち出したが、その基本精神は、平等互惠と被援助国の主権の尊重であり、被援助国の自力更生を適切に助け、被援助国に真の利益をもたらすことであった。対外援助の八つの原則は中国の対外援助の基本的な考え方と立場を定めており、中国の対外政策が対外援助活動のなかに具体的に表れたもので、過去において中国の対外援助活動を成功に導いただけでなく、今日においてもなお現実的な指針としての意義をもっている¹。

* 中国現代国際関係研究院アジア・アフリカ研究所、アフリカ研究部主任。

¹ 八つの原則は次のとおりである。（1）中国政府は一貫して平等互惠の原則に基づいて対外援助を行い、これまでこうした援助を一方的な施しとみたことはなく、援助とは相互的なものであると考える。（2）中国政府は外国に援助を提供する際、被援助国の主権を厳格に尊重し、決していかなる条件もつけず、いかなる特権も求めない。（3）中国政府は無利子または低利貸付の形で経済援助を提供し、必要に応じ返済期限を延期することにより、被援助国の負担をできるだけ軽減する。（4）中国政府が対外援助を行う目的は、被援助国の中国に対する依存をもたらすことではなく、被援助国が自力更生、独立発展の道を進むのを助けることである。（5）中国政府は被援助国の建設プロジェクトを助け、少ない投資で、速く効果が現れるよう努め、被援助国政府が所得を増やし、資金を蓄積できるようにする。（6）中国政府は自ら生産できる、質のよい設備と物資を提供するとともに、国際市場価格に基づき、価格交渉を行う。中国政府が提供する設備や物資が協議で決定した規格や品質に合致しないときは、中国政府は交換に同意する。（7）中国政府は海外にいかなる技術援助を提供するときも、被援助国の人々が十分にこの技術を掌握できるようにする。（8）中国政府が建設を手助けするため被援助国に派遣する専門家は、被援助国の専門家と同じ物質的待遇を受けるものとし、いかなる特別な要求、特別な恩恵も許されない。

アフリカ諸国は1958年末以降、相次いで中国と国交を結ぶようになり、中国のアフリカ諸国に対する援助はほぼ国交樹立の前後に始まった。当時は主にアフリカ諸国の中小型工業プロジェクトや農場の建設、井戸掘りを援助した。中国はまたアフリカ諸国に食糧援助も行った。1959年と1960年に、中国では食糧が二年連続して減産となったにもかかわらず、アフリカ諸国の要求に気前よく援助を提供した。1960年に、中国はギニアに1万トンの米を援助し、さらに「コンゴに5,000トンから1万トンの小麦または米を提供する」ことを発表した。この時期に中国は水道、電気、エネルギーの開発など、いくつかの緊急を要するプロジェクトを実施して、アフリカを援助し、アフリカ諸国に医療協力隊を派遣し、一部のスポーツ文化施設などの建設を援助した²。

この時期に中国がアフリカに対して行った援助の政治的目的は非常に明確であった。主にアフリカ諸国の民族独立と民族解放運動を支援し、アパルトヘイトに反対することであったが、同時に中国も政治的にアフリカ諸国の支持を求めることを外交政策の重要な要素とするねらいがあった。タンザニア―ザンビア鉄道はこの時期で最も重要な対アフリカ援助プロジェクトであり、この時期の対外援助の特色が充分反映されたプロジェクトのひとつとして、中ア関係の発展を促すためにプラスの役割を果たし、中ア関係の更なる進展に基礎を築いた。この時期において中国の国力には限りがあったが、さまざまな困難を克服し、多くのアフリカ諸国の要求を満たしていたというべきである。歴史的な制約から、この時期の中国の対外援助政策は実施過程で冷戦時代特有の色彩を帯びることを避けられなかった。

第二段階は中国の改革開放が始まった1978年から現在までである。中国が経済活動の重心を経済に移したことにともない、対外援助についても調整が行われた。対外援助が主に政治に貢献していたかつてのやり方を改め、発展途上国が経済の発展を国の発展戦略の中心にすえることを奨励し、これらの国々との間にできるだけ双方が利益を得られるウィンウィンの共同発展モデルをつくろうとした。中国の対外援助政策はいくつかの新しい特色を示すようになり、より経済協力の法則に合った新しい方法が作り出されたのである。

1982年末に中国の首脳は中国と発展途上国が経済技術協力を行うための四つの原則を打ち出した。「平等互惠のもと、実効をむねとし、多様な形式で、ともに発展する」である³。

² 楊麗瓊、外交文書機密解除：「1960年末までに中国の対外援助は40億元を超えていた」2006年7月29日。<http://politics.people.com.cn/BIG5/1026/4647017.html>。

³ この四つの原則の具体的な内容は次のとおりである。(1) 団結と友好、平等互惠の原則を守り、相手国の主権を尊重し、相手国の内政に干渉せず、いかなる政治的条件もつけず、いかなる特権も要求しない。(2) 双方の現実的なニーズと可能な条件に基づき、各自の長所と潜在力を発揮し、少ない投資、短い工期で、早期に収益を上げるよう努め、優れた経済効果が得られるようにする。(3) 多種多様なパターンが可能であり、その国の実情に合わせて行うものとし、技術サービスの提供、技術および管理者の養成、科学技術交流、建築プロジェクトの請負、共同生産、合弁経営などを含む。中国は請け負った協力プロジェクトについて、責任を持って約束を守り、持続し、義を重んじる。(4) 上述の協力の目的は、長短補い合い、互いに助け合うことにより、双方の自力更生能力に利するとともに、

この四つの原則は中国の対外援助政策に直接言及していないが、中国の対外援助政策に大きな影響を与えた。2004年8月31日から9月1日まで北京で開催された「全国対発展途上国外交工作会議」も、中国の対アフリカ援助政策に重要な影響を与えた。会議は中国が発展途上国に対する経済外交工作を行うに当たって堅持すべき原則をさらに踏み込んで確定した。それが「相互に尊重しあって平等に接し、政治によって経済を促進して政治と経済を結びつけ、互惠関係に基づいてともに発展をはかり、多様な形式を用いて実効を重んじる」である。会議は同時に中国が今後、発展途上国との経済協力プロジェクトで、発展途上国の人々の生活に密接に関連する象徴的なプロジェクトを選んで重点的に援助することを定めた。会議はさらに緊急災害援助の提供、医療隊の派遣、人材育成規模の拡大、発展途上国との多国間、地域間協力の深化など、対アフリカ（対発展途上国）援助関連の内容を発展途上国との協力の重要内容に組み入れることを定めた⁴。2005年9月、国連首脳会議発展資金調達会議で、胡錦濤主席はまた中国と発展途上国が協力を強化するための五つの措置を提案した⁵。アフリカは中国が発展途上国との協力、援助を強化する際の重要な対象のひとつである。2006年1月に中国政府は対アフリカ政策に関する文書を出し、「政治的には平等と相互信頼、経済的には互惠とウィンウィン、文化的には交流と相互に参考としあうこと」という政策を打ち出し、中国の対アフリカ援助はいつそう広範な分野に及ぶこととなった。2007年11月の中国アフリカ協力フォーラム（FOCAC）で、中国政府は八つの政策措置を講じることを宣言し、中国とアフリカの新たな戦略的パートナーシップの発展を促し、中国のアフリカに対する援助を大幅に拡大することを発表した⁶。

自国経済の発展を促すことにある。

⁴ 龔雯・「全国対発展途上国経済外交工作会議北京で開催」『人民日報』2004年9月3日第2面。

⁵ 五つの措置は次のとおりである。（1）中国は中国と国交を樹立している39の後発開発途上国の一部商品にゼロ関税待遇を与えることを決定し、優遇範囲にはこれらの国の多数の対中輸出商品が含まれる。（2）中国は重債務貧困国と後発開発途上国への援助規模をいつそう拡大し、二国間ルートで、今後二年間に、中国と外交関係のあるすべての重債務貧困国の2004年末までに期限切れとる未返還の無利子および低利政府貸付のすべてを免除するか、ほかの処理方法で帳消しにする。（3）中国は今後3年以内に発展途上国に100億ドルのソフトローンおよび特惠バイヤーズクレジットを提供し、発展途上国のインフラ建設の強化を助け、双方の企業による合弁・提携を促す。（4）中国は今後3年以内に発展途上国、とくにアフリカに対する関連援助を増やし、マラリア予防の特効薬を含む薬品を提供し、医療施設の設定、改善、医療スタッフの養成を助ける。具体的には中国・アフリカ協力フォーラムなどのメカニズムと二国間ルートを通じて実行する。（5）中国は今後3年以内に発展途上国のために各種の人材を3万人養成し、関連国の速やかな人材養成を助ける。

⁶ 八つの措置は次のとおりである。（1）アフリカへの援助規模を拡大し、2009年までに中国のアフリカ諸国に対する援助規模を2006年の倍にする。（2）今後3年以内に、アフリカ諸国に30億ドルのソフトローンをと20億ドルの特惠バイヤーズクレジットを提供する。（3）中国企業のアフリカへの投資を奨励し、サポートするため、中ア発展基金を設立し、基金の総額を次第に50億ドルにする。（4）アフリカ諸国連合の自己強化と一体化のプロセスをサポートするため、アフリカ連合会議センターの建設を援助する。（5）中国と外交関係のあるすべてのアフリカの重債務貧困国と最低開発国の2005年末までに期限切れとな

中国が打ち出した発展途上国に対する援助政策は中国のアフリカに対する援助政策に影響を与えたが、同時に中国のアフリカに対する援助政策と実践は中国の新しい対外援助政策の形成に非常に重要な役割を果たした。実際、アフリカは多くの状況下で中国の発展途上国に対する政策の「テストケース」「モデル」地域となった。ここ数年、中国政府は内外の新たな情勢に直面し、次の段階の対外援助活動について明確な基準を打ち出している。それは対外援助活動のレベルを上げること、能力に応じて行うという方針を堅持し、全力をつくすこと、一つ一つの協力プロジェクトを着実に実行し、被援助国が真に利益を得られるようにすること、実効に重きを置き、外交全体のために貢献することなどである。

第2節 対アフリカ援助の成果と特徴

1. アフリカ援助の成果

中華人民共和国成立以来、中国は自らが経済的に困難な状況のもとで、アフリカ各国の人々に貴重な支援とできる限りの援助を行ってきた。50年来、中国はアフリカに多くの援助を提供し、およそ900のインフラ、社会事業プロジェクトを実施した。内容は農業技術普及ステーション、農業協力プロジェクト、水利施設の工事、紡績捺染工場、製糖工場、製紙工場、葉巻・マッチ工場、化学肥料工場、発電所、セメント工場、病院などに及ぶ。このほか、さらに鉄道、道路、会議場、スポーツ施設などの建設を援助した。援助分野は農業・牧畜・漁業、水利・電力、交通・運輸、ラジオ・テレビ、文化教育・衛生、食品加工などに及ぶ。アフリカへの医療隊の派遣も中国の対アフリカ援助の重要な内容である。1963年からアルジェリアに第一回医療隊を派遣してから、モロッコ、チェンジア、マリ、ジブチ、ガボン、レソト、ナミビア、ギニアなど47カ国にのべ1万6,000人の医療隊員を派遣し、さまざまな病気の患者のべ1億8,000万人を治療した。このほか、中国はさらに一部アフリカの最低開発国が中国に輸出する商品に免税待遇を与え、アフリカ商品の中国市場への進出に便宜を提供した。同時に中国政府は積極的な措置を講じてアフリカの債務負担を軽減し、すでに累計でアフリカ諸国の対中債務109億元を免除した。現在すでに承諾済みで手続き中の債務免除がさらに百億元余りある。教育分野では、中国はアフリカの

る政府無利子貸付の債務を免除する。(6) アフリカに対しいっそう市場を開放し、中国と外交関係のあるアフリカの最低開発国が中国に輸出する商品について、ゼロ関税待遇商品を190品目から440品目に拡大する。(7) 今後3年以内にアフリカに3から5カ所の域外経済貿易協力区を設置する。(8) 今後3年以内にアフリカのために各分野の人材を1万5,000人養成する。アフリカに上級農業技術専門家を100人派遣し、アフリカに10カ所の特色ある農業技術モデルセンターを設立する。またアフリカのために30カ所の病院を援助し、3億元の無償援助を提供し、アフリカのマラリア予防を助け、アルテミシニンの提供および30カ所のマラリア対策センター設立に用いる。アフリカに青年ボランティア300人を派遣し、アフリカのために100ヶ所の農村学校を援助し、2009年までに、中国の政府奨学金を提供するアフリカ人留学生の数をのべ2,000人から4,000人に増やす。

50 カ国に政府奨学金を提供しており、奨学生の数はのべ 2 万人近くに及ぶ⁷。中華人民共和国成立後、アフリカ諸国にアンタイドの援助を大量に提供したが、これらの援助はそれぞれの歴史段階で、時代のニーズに応じた内包が与えられ、アフリカ諸国の政府と国民の高い評価を受け、中ア友好関係の発展と強化のために重要な役割を果たした。

中国がアフリカに提供した援助は量的には限られたものであったが、成果は非常に明らかであり、双方がそこから利益を得ることができた。中国の援助はアフリカ諸国の政治的独立、経済発展、社会の進歩を支えただけでなく、中ア経済貿易関係ひいては二国間関係全体の発展を促し、中国とアフリカ諸国の外交活動の範囲と国際的影響を拡大した。半世紀にわたり、中国がアフリカに提供した援助は関連国の経済発展、国民生活の改善、教育、医療、衛生レベルの向上など、多くの面で重要な役割を果たした。タンザニア—ザンビア鉄道、モーリタニア友好港など、中国の多くの建設援助プロジェクトが中ア友好の重要なシンボルになっている。中国のアフリカへの援助は中国とアフリカの二国間経済貿易関係をいっそう密接なものにただけでなく、中国とアフリカの政治的相互信頼を促進し、中国とアフリカ諸国の政治的立場においての意思疎通、外交行動における協調を促した。中国は国連人権委員会で西側の中国非難の提案を何度も打ち負かし、国連総会で幾度となく台湾の「国連復帰」のたくらみを粉碎し、2008 年のオリンピックおよび 2010 年の万国博覧会の招致に成功したが、これはいずれもアフリカ諸国の力添えによるものである。

2. 対アフリカ援助の特徴

(1) 互惠を重視する。中国の対外援助の特徴には、平等に相對し、共通の利益を守ること、全力を尽くし、いかなる政治的条件もつけないこと、互いに利益を得、ともに発展をはかることが含まれ、これらすべてに中国が対外援助を行う際の平等の考え方が現れている。まさにこうした基本精神と原則を堅持したために、中国の対外援助は平和、発展、協力、寛容という国際的イメージを明確に示し、アフリカ諸国からあまねく歓迎された。西側のある専門家は、アフリカの人々にとって、中国が提供した援助は彼らが西側諸国から獲得した援助のモデルとは異なるもので、非常に歓迎すべきものであったと評する。西側諸国はアフリカに対して一方では人に恩恵を施すような態度を示し、一方では我慢して身を落として付き合うといった態度を示す。西側諸国はもうひとつの選択の重要性を低く見積もっている。

(2) 援助と経済協力の結合を重視する。中国自身も発展途上国であり、中国がアフリカに提供する、可能な限りの経済援助は「南南協力」の範疇に属する。中国の対外援助の概念は西側諸国とは大きく異なる。西側諸国が政府援助と経済協力を明確に分けているのに対し、中国は対外援助の展開に際し必ずしも対外援助と対外経済協力の違いを区分してい

⁷ 温家宝のアフリカ銀行年次総会での祝辞「すでにアフリカの債務を 100 億免除」、www.singtaonet.com, 2007 年 5 月 17 日。

ない。これは中国の援助についての概念が異なるためである。中国はアフリカを援助する際に、アフリカをただの被援助対象と考えているわけではなく、アフリカにも中国の経済チャンスがあると考えている。この点がアフリカを国際社会の経済負担の対象、被援助対象とみる一部西側諸国の考え方とは異なるのである。また、中国は「人に授けるに魚をもってするは漁を授けるに如かず」とも考える。援助プロジェクトは経済協力プロジェクトと結びつけてはじめて、アフリカの発展をいっそう促進し、より多くの経済的、社会的効果を発揮できるのである。こうした考えから、中国の対アフリカ援助はしばしば中ア経済貿易交流と密接な関係をもつことになる。中国の対外援助のメカニズムは西側諸国とは大きく異なる。西側諸国は、アメリカの国際開発庁 (USAID)、イギリスの国際開発省 (DFID) のように、ひとつの対外援助機関をもっていることが多いが、中国で対外援助にかかわる機関は多く、外交部、商務部のほか、衛生部、農業部、教育部などの機関もある。実際中国では、外交にかかわるすべての機関が対外援助の任務を担うことができる。

(3) 対外援助のパターンがいっそう多様化し、分野や規模が急速に拡大している。1950年代、60年代には、中国がアフリカに援助を提供する際の主な形式は、プロジェクト建設、現物供与、専門家派遣などであった。1978年からは中国が改革開放政策を実施し、アフリカ諸国も経済構造の調整を行うようになった。中ア双方のそれぞれの状況に現れた新しい変化により、中国の援助のパターンとプロジェクトの形式は多様化し、内容はより豊富になり、効果もより顕著なものとなった。無償供与、無利子貸付、割引貸付、技術援助、プロジェクト建設、工場建設、専門家による指導、労務サービス、人材育成、技術訓練、技術管理指導、特惠借款供与、投資貿易促進センターの建設、重債務貧困国の債務減免、経済貿易官の養成、自然災害緊急援助などが、次第に援助や協力のパターンとなった。

ここ数年、中国経済の急速な発展にともない、中国の対外援助の分野と規模は次第に拡大している。2006年における中国の中央財政からの外交支出は168億元で、うち82億元は対外援助に用いられた。2007年に中国は外交支出に230億元を割り振っており、中央財政から対外援助に用いる支出は108億元に達する見込みである。2007年に中国の外交支出が大幅に増えている理由の一つは、中ア協力フォーラム (FOCAC) の精神に基づくアフリカ諸国などへの対外援助支出が増えたことである。また国際機関の会費、PKOの分担金などの支出も増えている⁸。2006年11月のFOCAC期間中に中国がアフリカとの新たな戦略的パートナーシップを強化するために打ち出した八つの措置のなかからも、中国の対アフリカ援助の規模と分野が次第に拡大しつつあることを見て取ることができる。中国経済の絶えざる発展にともない、中国はアフリカ諸国をサポートするためにさらに大きな貢献をするようになるだろう。

⁸ 財務部「2007年中国の外交支出は4割近く増加の予定、予算230億元」2007年3月6日、<http://gov.people.com.cn/GB/46737/5442322.html>。

第3節 対アフリカ援助の戦略目標

中国の対アフリカ援助の戦略目標は中国のアフリカにおける戦略的利益と一致している。中国は発展途上の大国であり、発展途上国は中国にとって重大な戦略的意義があり、発展途上国は中国の外交工作の基礎である。したがってアフリカは中国の外交工作の基礎の基礎である。中国の対アフリカ援助の戦略的利益は次の三つの面に具体的に現れている。

ひとつは政治的利益である。アフリカは国際政治の舞台における軽視することのできない重要な力であり、中国の外交全体の中で特殊な位置を占めている。中国の台頭にはアフリカ諸国の支持が必要である。アフリカ諸国の支持がなければ、中国外交の活動の余地は著しく狭まってしまう。中国は大国であると同時に、発展途上国でもある。こうした二重性ゆえに、中国外交の政治的基盤は発展途上国にあるといえる。言い換えれば、発展途上国が中国外交の基礎であり、中国外交の基本的な立脚点、出発点なのである。過去と現在においても、将来においてもアフリカは中国の戦略同盟軍であり、中国が西側の大国との関係をうまく処理するための重要なよりどころである。

二つ目は経済的利益である。中国の経済発展は地球上の資源を基礎としなければならない、世界市場を目指さなければならない。地球上の資源の有効配置という点からみたとき、とくに地球規模の競争という現況から分析したとき、中国経済発展のためには自国経済内の自己巡回という狭い視野を突破し、地球全体の資源を基礎とし、世界市場を目指す戦略概念を打ち立てなければならない。アフリカは資源が豊富で、市場の潜在力が大きく、中国が内外「二つの資源、二つの市場」という発展戦略を実施するうえでの重要な構成要素である。

三つ目は祖国統一のニーズからである。中国が祖国統一の大事業を成し遂げるためには、アフリカ諸国の支持が絶対に欠かせない。現在、アフリカには台湾と「国交を持つ国」がまだ5つある。ある意味でこれが、台湾独立勢力が国際的に「台湾独立」運動を展開する場ともなっている。中国とアフリカ諸国との協力は「台湾独立」の国際的な場を抑制するうえで重要な役割を果たしている。

第4節 対アフリカ援助が直面する新たな課題

中国の対アフリカ援助の規模拡大は、中国の対外援助政策に新たな課題を提起している。新たな情勢に基づくとき、対外援助がどのような新しい原則に依拠すべきか、いかにして援助をより効果的なものにするか、いかにして援助によって発展途上国が貧困から抜け出すことができるようにするか、いかにして企業が中国の対アフリカ援助のなかで積極的な役割を発揮できるようにする（企業の社会的責任を強化する）か、いかにして援助の国際協力を強化するか、いかにしてアフリカへの援助を通じて中ア関係の深化と発展を促進するかなどは、いずれも検討すべき問題である。直面する課題には主に次のものがある。

(1) 国内需要と対アフリカ援助の関係をうまく処理する。ここ数年中国経済は確かに急速な発展を遂げ、経済規模が拡大しているが、中国は依然として正真正銘の発展途上国である。一人当たりの GDP は現在も、そして今後もかなり長期間にわたり低いレベルにあるはずである。中国自身まだ数千万の貧困人口を有しており、地域間および都市と農村の発展が不均衡である。したがって、中国は今後も長期間、アメリカや日本などの国のようにアフリカを含む発展途上国に大量の経済援助を供与することはできない。しかし、同時に、中国政府は対アフリカ援助が長期的、戦略的な政策であることも意識している。これは、アフリカがいまでも世界の後発開発途上国、重債務貧困国が集中する大陸であり、20 世紀以来、アフリカの全体的な経済情勢は好転しているものの、多数のアフリカ諸国が依然として困難な状況に置かれており、経済発展にはどうしても外からの援助を必要としているためである。一方、中国の対アフリカ援助は結局のところ中ア経済貿易協力関係であり、すべての二国間関係のなかでも特殊な分野である。中国の対アフリカ援助によってアフリカが利益を得ているだけでなく、実際には中国もアフリカを援助することでアフリカにおける利益を拡大している。

(2) 中国のアフリカに対する援助がいつそうアフリカの能力建設を促すようにする。中国には「人に授けるに魚をもってするは漁を授けるに如かず」という古いことわざがある。中国の対アフリカ援助の規模の拡大にともない、中国がこの分野で直面する課題も大きくなっている。アフリカの持続的発展を助ける方法をみつけるという課題も依然として大きい。アフリカ諸国が「ルックイースト」の政策をとるのは、長年西側と協力してきたにもかかわらず、周辺化の苦境から抜け出せないでいるからであり、彼らはアジア諸国との協力を通じ、経済発展の道を見つけだし、経済発展の能力建設を強化することを望んでいる。したがって、中国の対アフリカ援助にはまずはっきりとした方向性がなければならず、これらの国の経済発展と関連があり、持続的発展をもたらさうるプロジェクトを援助するべきで、一過性の補償に基づくべきではない。また、中国の対アフリカ援助はこれらの国の市場育成と関連し、市場経済の発展を促すもの、経済相互協力と貿易の展開に資するものでなければならない。

(3) 企業の対外援助と経済協力における社会的責任を強化する。対外援助は政治性、政策性の強い経済外交活動である。中国企業は対外援助においても十分に積極的な役割を演じている。計画経済時代には、政府は行政命令の形で、政府が企業に望むほぼすべてのことを要求することができた。市場経済時代においては、政府も市場経済の法則を遵守しなければならず、法律、法規を通じて企業に対する監督管理を強め、中国企業がより適切に社会的責任を履行するように促すことしかできない。それによって、中国企業が経済的利益を獲得すると同時に、アフリカの現地社会、経済の発展と中ア関係の更なる強化を促進

することができるようにするのである。

(4) 従来の方法の継続と対外援助の専門化の関係を適切に処理する。対外援助の規模が拡大し、パターンが多様化したことにともない、中国はますます複雑な援助の課題に直面している。援助のパターン、援助の範囲、援助の額などを科学的な政策決定のレベルに高めなければならない。こうした課題をうまく解決できるか否かは、被援助国の利益にかかわるだけでなく、中国自身の長期的な発展にもかかわっている。今後、中国の対外援助は専門化、科学化、総合化、理性化の方向に進む必要がある。中国の対外援助は内外の情勢の変化に基づいて、常に刷新を行わなければならない。それにより、対アフリカ援助の運営体制、管理モデル、援助のパターン、援助の内容をいっそう合理的で効果的なものとし、援助のレベルと運営効率をさらに高める必要がある。

(5) 対外援助の法律、法規および規定をさらに整備する。中国の対外援助の規模が拡大するにつれ、対外援助が中国の外交に果たす役割も次第に大きくなっている。中国の外交政策の重要な構成要素として、対外援助にはこれと関連する一連の原則、法則、措置があるべきである。それによって中国の対外援助を法に基づいた、より科学性や規範性を備えたものにしなければならず、現在中国にはこの面でまだ大きな改善の余地がある。多くの先進国、とりわけ OECD 開発援助委員会のメンバー国は、いずれも援助に関する自国の法律があり、効果的な役割を果たしている。中国はこのなかから一部の合理的な要素を参考にし、中国の特色ある、南南協力の特徴を具体的に示す、指針的意義のある科学的で実務的な対外援助の法律、法規を制定することが可能である。

(6) 外国の経験に学び、長所をとって、短所を避ける。西側と比べたとき、中国の特色ある対外援助の理念と方法には多くの長所があり、こうしたよい伝統を引き続き堅持しなければならない。しかし同時に、中国も国際社会が行う対外援助の効果的な方法を積極的に参考とするべきである。先進国は長年の対外援助の過程で、少なからぬ失敗もしているが、私たちが学ぶべき多くの先進的な管理経験を蓄積しており、中国はこの点についての研究を強化するべきである。現在中国にはまだ優れた開発学あるいは国際開発援助学のバックグラウンドを持った専門家が不足しており、より多くの学生と学者を西側に派遣し、西側の経験と失敗を学ばせる必要がある。これは中国と西側諸国が協力してアフリカを援助するための基礎を築くこととなる。

(7) 多国間国際協力を強化する。中国の対外援助は相互協力を推進するという面ではすでに重要な役割を發揮している。しかし、中国は結局のところ発展途上国であり、対外援助資金には限りがあり、対外援助の手段にも大きな限界がある。中国がもっとうまく先進国と協力することができれば、さらによくアフリカを援助し、中ア関係の発展を促進するこ

とができる。中国と先進国がアフリカに今以上に投資し、アフリカとより多くの貿易活動を行い、アフリカにより多くの援助を提供することで、競争を展開するのは悪いことではない。しかし、中国が先進諸国とこうした面で協力ができればもっとよく、アフリカが早期にミレニアム開発目標を実現するのを助け、中ア関係の更なる強化を促すうえでもプラスである。

<参考論文>

Ashok Khosla (Development Alternatives Group) , "Leveraging Knowledge to End Poverty".

Eric Brewer (University of California, Berkeley) , "Development and Engineering".

J. Gregory Dees (Duke University) , "Philanthropy And Enterprise: Harnessing the Power of Business and Entrepreneurship for Social Change".

Jane Nelson (Harvard University) , "New Development Players and Models".

Jane Nelson (Harvard University) , "Effecting Change Through Accountable Channels".

Joseph O'Keefe (The Brookings Institution) , "Aid: From Consensus to Competition?"

Joshua Busby (University of Texas, Austin) , "Is There a Constituency for Global Poverty? Jubilee 2000 and the Future of Development Advocacy".

Homi Kharas (The Brookings Institution) , "The New Reality of Aid".

Mark R. Kramer (FSG Social Impact Advisors) , "Philanthropy, Aid, and Investment: Creating a Common Language" .

Matthew Bishop (The Economist) , "Fighting Global Poverty: Who'll Be Relevant in 2020?" .

Ngozi Okonjo-Iweala (The Brookings Institution) , "Nigeria's Fight for Debt Relief: Tracing the Path".

Simon Zadek (AccountAbility) , "Accountability Compacts: Collaborative Governance for The 21st Century".

以上の参考文献は米コロラド州アスペンで開かれた「2007年ブルッキングス・ブルーム円卓会議—『変化のなかの発展: 新たなプレーヤー、古い課題、新たな機会』(Brookings Blum Roundtable, “Development's Changing Face: New Players, Old Challenges, Fresh Opportunities”)への提出論文である。

<その他参考資料>

『対外援助と国際関係 (対外援助与国際関係)』中国社会科学出版社、2002年。

林暁光『日本政府の開発援助と中日関係 (日本政府開発援助与中日関係)』世界知識出版社、

2003 年。

Pearson Lester (皮爾遜·萊斯特)『開発援助のなかでのパートナーシップ (開発援助中の夥伴関係) (国際開発委員会報告書)』商務印書館, 1975 年。

張光『日本の対外援助政策の研究 (日本対外援助政策研究)』天津人民出版社, 1996 年。

高英茂『中華民国の対外援助政策の理念と発展 (中華民国対外援助政策的理念与発展)』二十一世紀基金会, 1991 年。

Baard Richard Stokke, *Soviet and Eastern European Trade and Aid in Africa*, Frederick A. Praeger, 1967.

Carol Lancaster, *Foreign Aid: Diplomacy, Development, Domestic Politics*, University of Chicago Press, 2007.

Hafiz A. Akhand & Kanhaya L.Gupta, *Foreign Aid in the Twenty-first Century*, Kluwer Academic Publishers, 2002.

Haim Malka, *Arab Reform and Foreign Aid: Lessons from Morocco*, Center Strategic & International Study, 2006.

Robert Calderisi, *The Trouble with Africa: Why Foreign Aid Isn't Working*, Yale University Press, 2006.